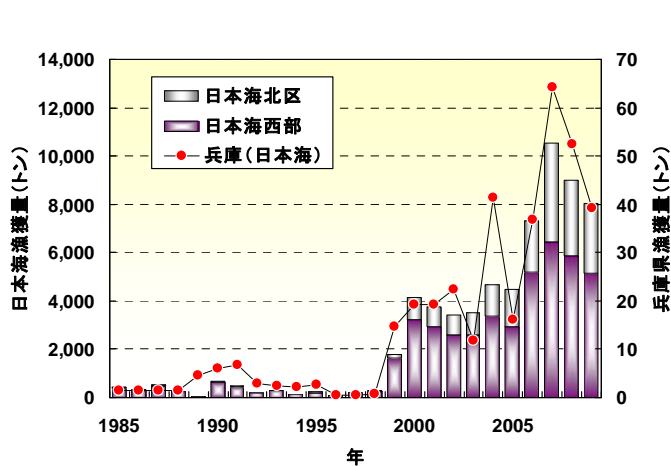


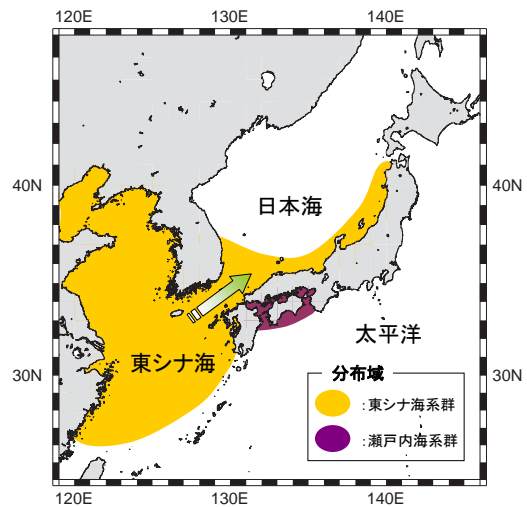
## 日本海で漁獲が急増したサワラ —その生態に迫る—

主任研究員 西川 哲也

日本海では、1999 年を境にサワラの漁獲が急増しました。その要因として、サワラ的主要な分布域である東シナ海の資源量が増大したこと、日本近海の海水温の上昇など海洋環境の変化によって、サワラが東シナ海から日本海に来遊しやすくなったことが考えられます。



日本海におけるサワラ漁獲量の経年変化

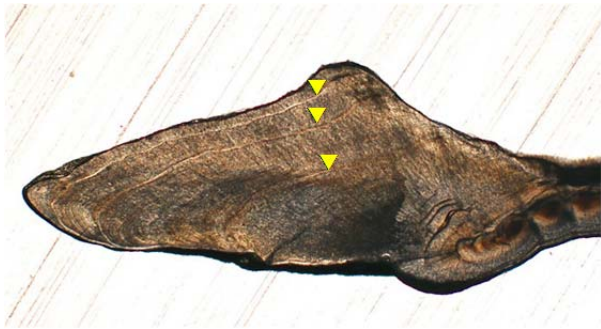


日本海で漁獲されるサワラ(東シナ系群)の分布域

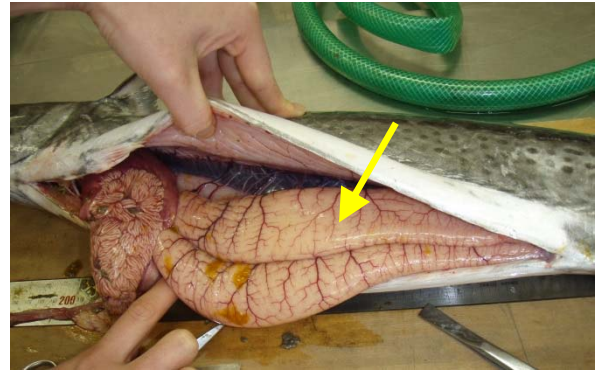
本研究では、サワラが日本海でどのような分布、回遊をしているかを明らかにし、謎の多い日本海のサワラの生態解明に取り組みました。その結果、日本海で漁獲されるサワラの生態について、以下のことが明らかとなりました。

- ①日本海のサワラは5～6月頃に東シナ海でふ化し、9月頃に40 cm程度に成長して日本海へ来遊する。
- ②サワラは6～12月の間、急激に成長するが、冬～春は成長が停滞する。
- ③サワラは満2歳の春には成熟するが(雄の一部は満1歳で成熟!?)、それまでは日本海を回遊している。
- ④成熟したサワラは、春の産卵期に再び東シナ海へ南下する。
- ⑤兵庫県で漁獲されるサワラの多くは0歳魚で、2歳以上のサワラはほとんど漁獲されない。

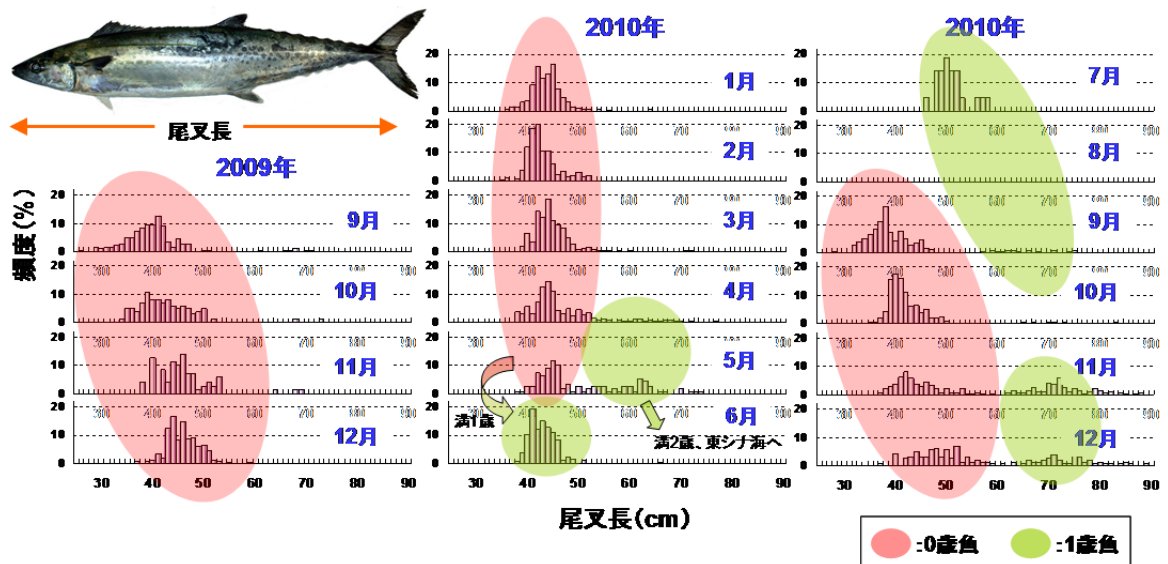
これに対して、瀬戸内海では暖かい太平洋で越冬し、春に産卵のため来遊してきたサワラが漁獲されています。このように、サワラは日本海と瀬戸内海で異なった回遊パターンを示し、兵庫県の海域で漁獲されていることが明らかとなりました。



サワラの耳石薄層切片による年齢の査定  
(写真は3歳魚の光学顕微鏡写真)



卵巣が発達し始めた満2歳直前のサワラ(♀、5月)



兵庫県(日本海)で漁獲されたサワラの月別体長組成